

総合コミュニケーション科学 PBLの進め方

担当：S学科 石田尚行

概要 『科学／工学にまつわる似而非、欺瞞、オカルト』

- ・ 巷でまことしやかにいわれている説（例：「この空調システムはマイナスイオンが発生して体に良い」、「コップの中の水は、貼ったラベルの文字が読める」など）を取り上げる。Debate の訓練のために、支持する側と批判する側に分かれて（必要ならば強制的に）、それぞれ相手を論駁すべく、手厳しくしかし冷静に理性的に話してみる。説明の能力の向上に注意をはらいつつ、ツイデに理科の勉強もできるとよい。

第1週

- ① 全員で、『いま巷で話題の”説”』をとにかくいろいろ挙げる。ブレインストーミングといって、評価は後回しにする。
- ② 顔見知りでない者がメンバーとなるような組み合わせのグループを作成する。なれ合いや遠慮を排除するためと、社会の縮図の訓練のため。
- ③ グループごとに議論し、「これはホント」「これはウソ」と考えをとりまとめていく。
- ④ グループごとに発表して、グループの間での結論の差異に注目する。
- ⑤ 異なる意見を持つグループ（あるいはメンバー）が現れるであろうから、支持、反対いずれにしても論拠となる”事実”を次週までに調べてくる。

第2週 《参考資料持ち込み可、プロジェクター、パソコン・携帯等の使用可》

- ① 受講までに「用意周到に準備すること」はよいプレゼンテーションの前提である。パワーポイント等の利用を強く推奨する。配布資料を用意してもよい。
- ② グループごと調べてきた”事実”等を持ち寄って、発表戦略を話し合う。立場を明確にする。発表シナリオを策定する。
- ③ グループごとに発表する（論理的に説明する）。他のグループの人は批判的な立場から突っ込む。穴の無い論理の構築や、説明／説得、プレゼンテーションについての技術を磨く。
- ④ Debate する。ただし時間短縮のために発表の質疑応答の形でそれを行なうかも。

第2週終了後、次の金曜日までに...

- ・ 理解が不足していた点について、さらに各自で勉強を進める。各自、調べた成果をレポートにまとめて、提出する。

提出場所：東6号館3階エレベータ前のレポート提出ボックス